

## 千葉県匝瑳市の『アルカディアの里』で開催されました！

5月17日は、遠足第二弾。総勢8名で、田植えを楽しんできました！千葉県匝瑳市、八日市場駅からタクシーに乗って15分程。細い道をどんどん進んでいくと、森に囲まれた静かな場所一面に田んぼが広がっていました。



アルカディアの里に着き、まずは着替え。みんな、ジャージに裸足、帽子に首にはタオルという格好。田んぼの方に降りていくと、カエルの鳴き声がきこえてきます。澄みきった青空と、緑の木々、時折吹く風が気持ちいい！！



今回、田んぼを提供してくださったのは、開放屋 橋本理乃(あやの)さん。昨年、my田んぼを持ち、無農薬の稲を育てています。初めに、理乃さんに田んぼについて教えていただきました。田んぼって、冬は水を抜いているところがほとんどですが、こちらは不耕起栽培。冬も水をはったままで、耕さずに苗を植えるので、微生物がよく育ち、土を豊かにするのだそうです。

苗の植え方を習い、いよいよ田んぼへ！足を踏み入れたときの泥の感触が何ともいえません。泥の中に足が沈み、包み込まれるような感じ。足の裏から伝わる大地のあたたかさ。地球とつながっている～！！



田植えは、横一列になってスタート！一定の間隔をあけながら植えていくのですが、思っていたよりも大変。粘土質の泥で、何度も転びそうになります。結構深くて、最初は、苗をしっかりと植えられているか確認しながらの作業でした。田んぼの中には、おたまじゃくしやカエル、アメンボやタニシがいっぱい！土に生きている生き物とともに、命が育っていくんだなあと感じました。

田んぼと苗と向き合いながら、カエルの声をBGMに黙々と苗を植える時間は、瞑想タイムのよう。ふっと顔を上げると、植えたばかりの苗の上を、さわやかな風が吹き抜けていきます。ゆるる緑があまりに美しく、みとれてしまいました。

田植えのあとは、お昼ご飯！炭と釜でご飯を炊き、豚汁と一緒にいただきました。外で、みんなで食べるご飯は、おいし

い！！お米一粒一粒のありがたさも一緒に味わいました^^

参加してくださったみなさまからは、「泥が気持ちよかった」「お米の大切さを感じた」「みんなで食べるご飯がおいしい～」「とっても素敵な場所」などのご感想をいただきました。

自然と一体になり、大地の恵みを感じられる田植え。みなさまも、ぜひ体験してみてください！（ライター 水島笑里）

## 農業・田植えについて



アルカディアの里の青木代表に大変興味深いお話を伺いました。

青木さんは国指定の難病を患い、度々の入退院を繰り返されたという事でしたが、  
私たちが伺った時にはそんな印象は全くなく、にこやかに笑い言葉もはっきりとなめらかに、想いを語っていただきました。

アルカディアの里に集まるコンセプトは、「笑顔で集まる事」。  
現代社会ではなかなか切り離すことのできない時間とお金を忘れ、今この瞬間を感じ、自然と人の豊かさを感じられる場所でした。

青木さんは若いころに、お金というしがらみから離れたくて、3年もの間、お金を持たずに日本中を歩いて回り、たくさんの方にお世話になったそうです。  
そして、そのたくさんの方に受けたお世話を、「お返し」するためにこのアルカディアの里という場を、社会に提供されていていらっしゃいます。



年配の痴呆症の方が、この里で、ご飯を薪で炊く事から、昔を思い出され、元気になられたり、統合失調症の方たちが滞在された時にも、自然の中で相対して生きる姿は、本人にも周りにも病気を忘れさせるほどの影響があったようです。

「自然はつよい」とおっしゃった青木さんの言葉に、自然の全てを受け止めてくれる包容力や、どんな相手にも変わらずに存在するあり方が、人に対して大きな影響力を持つのではないかと感じました。

昔は田んぼの中にある菌などが、泥遊びを通じて子供たちの自己免疫となっていたものが、自然の中で育つ機

会が減ってしまった都会の子供たち故に重病化している事があるそうです。

また危険だからと言って大人が先に口をだして禁止するのではなく、多少の危険の中から、子供たち自らが学んでいく力を、信じ育んであげることが大切だと、改めて感じました。

世界の戦地も自ら回ってきたという青木さんの生き方は、今のこの場から、想いのある方へ、じわじわと伝染して行き始めているようです。

障害者、弱者だから、自分では何もできないと、相手に求め依存するのではなく、自分が社会にできる事を探し、社会に循環させていくことが大事とメッセージを伝えてくださいました。  
(ライター 佐藤詩子)





## アルカディアの里とは

アルカディアの里は、青木栄作先生が千葉県匝瑳市に建てたアトリエを中心として広がる里山と人の輪です。千葉県の里山条例により発足したアルカディアの里は、県認定ボランティア団体として、毎月の第1土曜日を定例作業日と定め里山整備活動を行っています。また現在までに7回開催されている「里山ウォーク」を通じて里山・里地の役割、自然保護と環境保護の重要性、その素晴らしさを広めています

地元保育園、幼稚園、小中学校の体験学習の場として芋ほりや竹林整備に開放し、県内外のボーイスカウト・ガールスカウトの野外活動にも協力し、結果、2007年に「千葉県認定・教育の森」となりました。アルカディアの里では、都市在住者に田んぼと地元の農家さんを仲介し、AMITA,RICOHなど企業を含め、現在9組の方達が週末田んぼを楽しんでいます。音楽イベントの実施や里山関係者の視察団を頻繁に受け入れており、年間約2,000人が訪れる里。

アルカディアの里の代表は青木栄作氏。60歳、画家。丘の上のアトリエ住人。里山活動団体アルカディアの会主催。18歳からスケッチブック片手に日本を放浪。のち、絵画の創作活動の傍ら、国内のみならずアフガン、イラク、パキスタンなど中近東やアフリカの紛争地帯や戦地の前線を巡られ、23年前に、千葉県の匝瑳市に移り住むことになりました。15年前、難病の「多発性硬化症」に倒れ現在も闘病生活を余儀なくされるが、地元の人や行政の協力の下自宅敷地を拠点にアルカディアの会を立ち上げ、自然保護と環境教育を促進する活動を精力的に企画、運営されています。

アルカディアの里では農作業体験、開墾体験、薪割り、火起こし、協働料理体験ができます。そのほか、アルカディアの里にはたくさんの地球と仲良しな人が訪れ、インディアンズウェットロッジや各種イベントを開催されているようです。「アルカディアの里 イベント」などで検索して頂くとこれまで開催されたイベントがでできます。

代表の青木さんはまるで仙人。人が好き、お話大好きな青木さんにぜひ会いにしてみてくださいね。

検索→アルカディアの里 (富森)

## センス・オブ・ワンダー

ある日、隊長富森の元に『センス・オブ・ワンダー』というメッセージが人づてに届けられました。『センス・オブ・ワンダー』はレイチェル・カーソンの著書で、レイチェル・カーソンは1962年に著書『沈黙の春』で農薬や化学物質による環境汚染や破壊の実体に、いち早く警笛を鳴らしたアメリカの海洋生物学者でした。『センス・オブ・ワンダー』は、レイチェルが幼い子どもと一緒に自然を探索した体験をもとに書かれたエッセイで、子どもたちと自然の中に出かけ、神秘さや不思議さを目をみはる感性を育み、分かち合うことの大切さを伝えています。この『センス・オブ・ワンダー』がアースプレイヤー隊長のわたしの元に届けられた理由、それは今、この時 Earth Player というフィールドを通して『センス・オブ・ワンダー』を広め浸透させて行く、ということ。何を広め浸透させて行くかという、レイチェルが書いた一文にそのヒントがあります。

子どもの頃は誰もが豊かに持っている「感じるこころ」。おとな達は誰もが「子どもたちに豊かに育ててほしい」と言います。でも、大人たちは、子どもたちと感動を分かち合うようにしているでしょうか。人工物に夢中になって自然から遠ざかったり、自然に触れても知識を身につけることに気をとられ「感じる」ことをしなくなっているのではないのでしょうか。

大切なのは、まず「感じるこころ」を育み、輝かせること。そのために、美しさ、神秘さにあふれる自然に入ってみよう…と。

子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になる前に澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直感力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

普段当たり前すぎて気がつきもしない美しい自然に目を向ける、土に触れ、木に触れ、花を愛でる。流れゆく雲を眺め、そよそよと頬を撫でる風の音を聴く。自然は地球はわたしたちに何を伝えているのかを感じる。そして感じることから「知りたい」という欲求に発展していくと思うのです。深刻にはではなく、地球を自分の身体で感じることから始めていきましょう。

これからも Earth Player では『センス・オブ・ワンダー』を感じられるイベントを通し、メッセージを日本に、世界に発信していきます。(富森)

# ロック・バランスアート

5月23日、Earth Playerではロックバランスアート大会を多摩川の河川敷で開催しました。総勢9名、大の大人が石と向き合い、石と対話を楽しみました。そもそもロックバランスアートとは、アメリカ・コロラド州のMichael Grab(マイケル・グラブ)さんがはじめたアートで、自然にある石を絶妙なバランス感覚で積み上げるという美しいアート。先日隊長富森がイッテQという番組を見ていたら、この方が出ていました。なんでも石と一体になった時に奇跡が起こると。石が積み上がる一点が見つかる「瞬間」があるのだそう。それを見ていたわたしは、これはまさにノーマインド 禅体験だ！と感動し、これをEarth Playerでやりたい！と思ったのです。普段河原にある石、何気ない石に意識を向け 無心になって石を積む。そこにはとても美しい世界が広がるんじゃないか、と。SMAPの新しい新曲「JOY」の歌詞にもこうあります。「ムダなことを 一緒にしようよ 忘れかけてた魔法と集まり(Joy!! Joy!!) あの頃の僕らを 思い出せ 出せ もったいぶんな 今すぐ(Joy!! Joy!!)」そして迎えたロックバランスアート大会。誰が一番！なんて競うことなく、それぞれが自分のスペースを創り、黙々と石を積む。石と向き合う。共に一見ムダに思えそうな石積みを夢中になってやってみました。参加して下さったみなさん、「楽しかった！」と言って下さり、特別なことをしなくても地球と繋がる、対話する、自分と繋がる、何かを想いだす そんなきっかけを提供できスタッフ共々とても嬉しい時間となりました。石はこの地球上どこにでもあります。ぜひあなたも外にでて石を積んでみてください。そこに見えてくるものがきっとありますから！（富森）



## 編集後記

「田植え」・「ロック・バランスアート」・「センス・オブ・ワンダー」と、盛りだくさんでお届けしました、ニュースレター第2弾はいかがだったでしょうか？メンバー内で打合せをしていると、あれもこれもと様々なアイデアが出てきて、Earth Playerが進化している事をいつも感じています。でも私たちがお伝えたいことは一貫して、「五感を通して地球と繋がること。そして地球を感じ、興味を持ち、知る！」ということです。まだイベントの開催が3回と私たちも経験は少ないのですが、参加するごとにその大切さを実感しております。そして、色々な方にその素晴らしさをお伝えしたいという思いから、「Earth Player」のスタイルはどんどん変化しているんです。これまでも「Earth Player」に興味はあったんだけど、一体何をやっているのか…?という方のために、次回からイベント名を「地球お散歩」とする事にしました！散歩に行くようなノリで、気軽にみんなで地球を楽しみましょう～♪ご参加いただくだけで日常から抜け出すちょっとしたヒントに出会うかもしれません…(\*´-`\*)!? あなたなりのスタイルで受け取っていただけたら、ただそれだけで嬉しい。そう思うのです^^ (ライター 具志堅 章子)



|                   |  |
|-------------------|--|
| 6/14<br>(金)       | 地球お散歩～木と繋がる編～  |
| 7/11<br>(木)       | 菌と地球を感じる遠足(予定)   |
| 9/21<br>(土)<br>予定 | Earth Player フェス！<br>あるテーマにそって地球を感じ、体感し、知ることが出来る楽しいアースプレイヤーフェスティバルを予定しています。お子さんの自由研究も終わられますのでぜひご家族でおこください。 |